

茶山ポエム ART&MUSIC コンクール

1 募集

応募資格は16歳以上の成人を対象にしたコンクールで、「茶山ポエム」をイメージした挿絵・イラスト、カリグラフィや作曲を募集した。(2016年)

主催は「茶山ポエム神辺創成の会」(代表：三宅真一郎氏)。

菅茶山記念館が後援し、茶山顕彰会／葛原文化保存会／神辺町観光協会／神辺町商工会が協賛した。

このコンクールに併せて、同会により『まんが福山の歴史・神辺編—菅茶山・葛原しげる』(制作：中山善照)が発刊された。



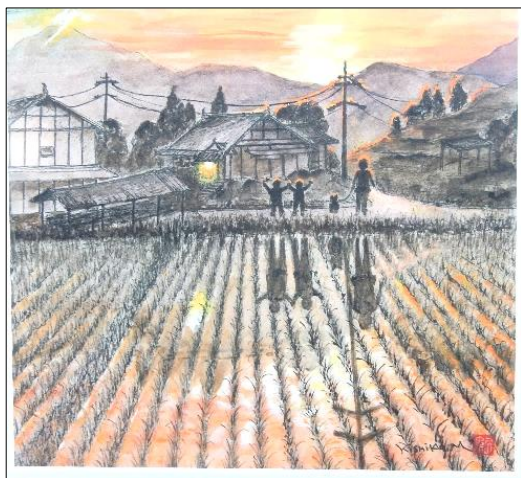
2 コンクール発表



2017年5月28日(日)、茶山ポエム神辺創成の会主催、菅茶山顕彰会共催の「廉塾花祭り」が廉塾で開催され、コンクール成績発表が行われた。

会場の花畑には、入選した「ポエムアート」9点と『マンガ』掲載のイラスト7点が展示され、コンクール入選曲「天狗松／山寺の和尚さん」(葛原しげる作詩)が作曲者の野崎悟良さんのギター弾き語りで発表された。

3 入選作品(イラスト)



夕日(所見)

<原詩> 落日残紅在 新秧嫩翠重
逢雷何處雨 雲没兩三峰



春や春

<原詩> 郊村一夜雨 更添柳梢緑
春色日以深 和風日以燠

(以下略)

菅茶山の漢詩を歌う『ふるさと中条』

【黄龍山に登る】（訳詩・佐々木龍三郎 補訳・奥野純子 曲・石橋元嗣）

おひさま 西に見えかくれ お山の緑も ぼんやりと
遍照寺ってどこかしら 鼻歌まじりに 登っていたら
「おっと あぶない」 ぐらつく岩が足の下
こわごわ下界をのぞいてみると 広がる谷間は 松の波



【前口上】（詩・山田拓志 補・奥野純子 曲・芝沼紀子）

神辺名物数々あれど 音に聞こえた廉塾は
瀬戸内海の特別史跡 巖島神社と同格の
歴史の誉れ謡われた 貴重な郷土の宝物
茶山先生儒学の大家 江戸は中期の漢詩人
郷土を歌った数百の七言絶句は 現代の私たちにもそのまま
気持ちの分かるものばかり

（後略）

【所見】（訳詩・佐々木龍三郎 補訳・奥野純子 曲・石橋元嗣 伴奏編曲・奥野純子）

お山にのぼって 待ってたら まんまるぼうやが ぽっかりと
東の空に のぼったよ それでも まだまだ西の空
のこる 夕日の衣のすそ もう一度 東に目をやれば
ねぐらに帰る 鳥の背に まんまるぼうやが のかった

【寒水寺に登る道で】（訳詩・佐々木龍三郎 補訳・奥野純子 曲・石橋元嗣）

飛んでいる鳥よりも高く 寒水寺が見える 深い木々の合間から 水音が聞こえる
「やあれ あちい しんでえなあ」
小径を探し 上る途中 草を敷いて ひと休み 涼しい風が 吹いてきた
「やあれのう 登るかのう」
ぐるり 辺りを見渡せば あちらこちらに 雲につつまれた 松林

【即事】（訳詩・奥野純子 曲・石橋元嗣）

林をつつむ朝霧が 静に幕をあげていくと 光は世界に満ちあふれ
今 今日が新しく始まる 小鳥たちの歌声が 明るく響くと
そこは光を受け 黄金に香り 豊かに広がる稲の海

【中条帰路】（訳詩・山田拓志 奥野純子 曲・藤川明子 伴奏編曲・芝沼紀子）

山は今にも 雨になりそうな 暗い雲に押しつぶされ
私の家は 高い松と竹藪の向こうにあります
遠い夜道に人はなく 林の中から かくかくと
水鶏が私を呼ぶようです

【黄龍山】（訳詩・山田拓志 奥野純子 曲・藤本宏美 伴奏編曲・芝沼紀子）

汗をふきふき 山道で ちょっと一服 見渡せば
あの山 この山 みなそれぞれに なかなかええのう 絶景じゃ
ようようてっぺん 辿り着き ぐるり 来た道 見下ろせば
ふもとの田んぼの景色 これまたええのう 悪うない